



むさしのK T A L

生成AIがすぐに答えを教えてくれる時代、 だからこそ空想する楽しさを知ってほしい

池田あきこさん — 絵本作家

生まれたのは吉祥寺ですが、父が国鉄(今のJR)に勤めていた関係で各地を転々として、35年前からまた吉祥寺に住むようになりました。自然豊かな井の頭恩賜公園が近くにあつて、何でもそう吉祥寺駅周辺まで歩いて行ける「世界最高の場所」だと思っています。この環境で創作できるのは本当に幸せですね。

私たちの革工房「わちふいーんど」が誕生して今年で50年です。もともと母が革細工の教室を開いていて、私も余った革で小物を作っていました。ある時、武蔵野市にあった卸業者の方から、「君の絵が付いたものなら絶対売れる!」と言われ、母や教室の生徒さんたちと一緒に工房を立ち上げることに。

「猫のダヤン」は、叔母が飼っていた猫をモチーフにショップの看板などとして描いたのが始まりです。かわいけれど独立心が強くて、何を考えているのか分からない猫の不思議な

議さに惹かれましたね。2033年のダヤン誕生50周年には、井の頭のアトリエをギャラリーにしたいという目標があります。

今年3月には、吉祥寺美術館で第五小学校の5年生を対象にアーティスト・イン・スクールというプログラムも行いました。井の頭池の底が「わちふいーんど」につながっているという設定で自分だけの島を創作してもらおうというワークショップでした。子どもたちはハンバーガーが空から降ってくる島とかフライドポテトの畑がある島とか、自由な発想で島を作ってくれました。

今はスマートフォンが日常的なものになって、生成AIがすぐに答えを教えてくれるような時代です。その一方で、子どもたちが自由に空想をする機会が減っているんじゃないかと心配しています。私の作品が、少しでも空想の助けになればうれしいですね。

池田あきこ (いけだ・あきこ)

1950年、東京都武蔵野市生まれ。1976年に革工房ブランド「わちふいーんど」を発足。1983年、ショップのシンボルとして「猫のダヤン」を描く。1987年から「不思議な国わちふいーんど」を舞台に絵本を描き始める。画集、長編物語、旅のスケッチ紀行などの作品を発表し続け、現在、出版した書籍は130タイトルを超える。山梨県富士河口湖町に猫のダヤンとわちふいーどの世界を楽しむ河口湖木ノ花美術館がある。